

一人は万人のために、
万人は一人のために

生協の理念

わたり病院玄関に掲げてあります

ふくしま



発行所
福島医療生協

2021年6月号 第419号
発行責任者 山口 裕
<http://watari-hp.jp/>

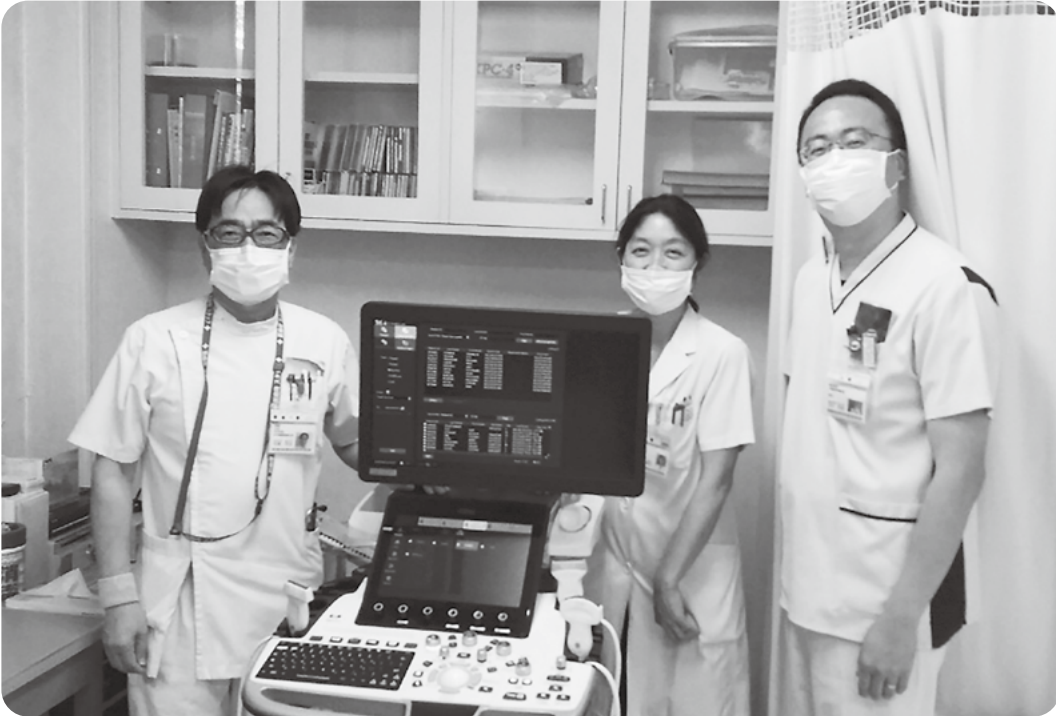
福島医療生活協同組合
医療生協わたり病院
生協いいの診療所
医療生協わたり病院附属
ふれあいクリニックさくらみず

医療生協

TEL 024-522-1236
TEL 024-521-2056
TEL 024-562-4120
TEL 024-559-2664

〒960-8141
〒960-8141
〒960-1301
〒960-0241

福島市渡利字中江町66番地
福島市渡利字中江町34番地
福島市飯野町字後川27-2
福島市笹谷字釜谷地20-1



新しい腹部エコーの機械とスタッフ(左から佐藤祐治医師、補助スタッフの森山さん、診療放射線技師の及川さん)

コロナ禍でも

健診を受けましょう

6月から福島市民健診が始まりました

福島市の健診が6月1日から始まりました。昨年、新型コロナウイルス感染症の流行により受診を控えた方もいらっしゃると思います。依然流行は続いてはいますが、わたり病院といたいのさくらみずの両診

療所では、みなさんが安心して健診を受けていただけるよう感染予防対策をとっています。(密にならない工夫、人数制限、時間差での受付など)

毎年受けている方はもち

ろん、「自分は大丈夫」「なんか見つかったらおかしい」と、今まで受診したことがなかった方は特に、日頃頑張っている自分の体のメンテナンスだと思って受けてみてください。ご家族や地域で声をかけ合い、いのちと健康を守る輪を広げましょう。

わたり病院では、健診受診後の精密検査にも使う、腹部エコーの機械とCTを新しく購入しました(左記参照、CTについては次号掲載)。

画像にびっくり!

『これは使える!』

腹部エコーの機械新しくなりました



2021年3月に腹部エコーの機械が新しくなりました。12年ぶりのリニューアルです。

新装置の特徴として画質の改善があります。近年増加する生活習慣病患者に対しては、今まで見づらかった体の深部までしっかり見えるようになりました。また、プローベ(患

者さんの体に当てる部分)の機能も向上し、より画像が綺麗になりました。

モニターは4K対応有機ELで解像度が向上し、黒白もはっきり表示出来るようになりました。これにより画像描出能が向上し、不鮮明なものがより鮮明になり、小さな病変もこれまで以上にみつ

「命が助かりました!」

私の夫は、昨年、わたり病院での健診で初めて心電図の異常が認められ、精査になりました。心臓のエコー、CT検査、その後入院して心臓のカテーテルの検査を受け結果は狭心症でした。肝

動脈の完全閉塞している部位と2か所の狭窄部位が判明し、渡部先生より説明を受け、早速内服処方され、大学病院に紹介の運びになりました。翌週に大学病院を受診し、2週間後に入院して治療。狭窄部分は2本のス

テント留置と、バルーンでの拡張術の治療を受けました。完全に閉塞している部分は今後の治療になりますが、これまでの体調が

うそのように改善し、息切れや胸の苦しさが無くなったようです。

治療前の自覚症状は、坂道を上った時などは少し息切れするようでしたが、「年だから」とあまり気にしていなかったようです。コロナ騒ぎで健診はどうしようかと迷っていた昨年でしたが、あのままだったらと今思うとゾッとします。

「命が助かりました!」先生はじめ、健診センター、外来、病棟、そして医療連携に関わった職員みなさんに感謝いたします。本当にお世話になりました。 渡利支部 Y T

れるようになりました。さらに、組織の硬さを測定できる機能も追加され、肝硬変診断の強い味方になってくれるものと期待しています。

この新装置を使用し、我々職員は診断能力の向上を目指しますので、組合員みなさんには、ぜひ出資金でのご協力をお願いいたします。(2021年度の予算での購入となっています。)

コロナニモマケズ 組合員活動

新型コロナウイルス感染症の流行により、様々な制約がある中、人とのつながりがより一層大切になっています。福島医療生協では、感染の流行状況を確認しながら、コロナ禍でも感染予防をしながら活動を進めています。(感染拡大状況により中止する場合もあります)



松川若宮班



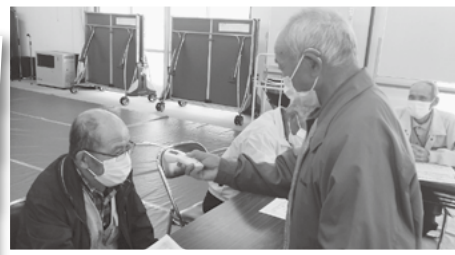
飯坂誕生月訪問



蓬莱わいわいクラブ



杉妻ウォーキング



川俣山木屋すずらん班

シリーズ 原発事故から10年を経て ⑤

放射線被ばくの不安を無くすために

放射線科 大橋 学

ホールボディカウンター

福島医療生協では、原発事故による放射線被ばくの不安に対して様々な取り組みを行って来ました。そのひとつがホールボディカウンターによる内部被ばく検査です。この装置は、体の中にある放射性物質から放出される放射線を測定し、

どんな放射性物質がどれだけの体の中にあるのかを調べることでできるものです。原発事故以前には、放射性物質を扱うような施設以外にはほとんど設置されていなかったものでしたが、全国の仲間からの支援により、福島医療生協にも導入することができました。



不安を小さく

広範囲に放射性物質が広がったことにより、事故直後には、内部被ばくに対する不安からたくさんの方が検査を受けられました。私自身も検査を受け、少量ながら放射性物質が検出され不安な思いを経験しました。事故から10年が経過した現在、検査件数は少なくはなっていますが、食品からの放射性物質の検出がほとんど無くなり、内部被ばくに対する不安が小さくなってきているのではないかと思います。しかし、不安がゼロになっているわけではありません。私たちは、検査を受けることによって不安を小さくすることができると考え、検査の要望にはこれからも応えて継続していきたいと思っています。



原発ゼロの実現を

先日の地震で、10年前を思い出し不安になった方も多かったと思います。地震後の原子炉内の水位の低下、地震計の故障放置などの報道は、不安を大きくさせるものでした。そのような状況の中、国は、汚染水の海洋放出の方針を決めるなど、福島県民の思いを受け止めているとは到底考えられません。原発事故を経験し、その影響を身を持って体験している私たちにとって、原発の存在そのものが、一番大きな不安の原因ではないでしょうか。

10年経った今でも多くの被害・影響を及ぼし続ける原発事故を二度と起こしてはなりません。原発ゼロを実現することが不安を取り除く最大の手段だと思います。ぜひ一緒に原発ゼロを求めていきましょう。

国民との約束守れ

—— アルプス処理水海洋放出反対 ——

理事会 社保平和委員会 理事 安田 政彦



菅政権は4月13日の関係閣僚会議で、2年後をめどに、希釈したアルプス処理水の海洋放出を決めました。このことは、「関係者の理解なしに、いかなる処分

もしない(2015年8月25日東電廣瀬社長(当時)「との約束を反故にするものです。その他、原発事故関連の約束でも、汚染土壌の県外に運び出しも場所さえ決まらず、「中間貯蔵所に移動する」との約束も完了せずに、県内のあちこちに袋が山積み場の場所があります。まずは、県民・国民に約束したことを遵守することを強く求めたいです。

今回のアルプス処理水海洋放出には、漁業関係者はじめ、

多くの人が安全を危惧しています。全国漁連会長・福島県漁連会長が菅総理との会談で絶対反対を表明したにもかかわらず、海洋放出方針の暴挙に出たことを許すことは出来ません。県民に更なる困難と犠牲を押し付けるものです。

原発事故から10年の日には、齋藤紀理事長を先頭に、組合員職員合わせて140名余が参加スタンディングを行いました。通勤者の人たちに、支援の御礼や私たちの思い「事故を忘れないように」「被災者の声を大切に」を伝えました。

原発事故は、国民に直接・間接的に大きな影響を与えるものです。海洋放出反対の声を被災県民として挙げていきましょう。

100歳おめでとうございます



高齢者住宅ひだまりに
居られている本田ハチさんが、
今年の3月25日に100歳のお
誕生日を迎えられました。
当日は、福島市役所長寿福祉
課の方にお越し頂き、ご家族
と一緒に祝い会を行いました。
主治医の佐藤祐治先生か
らは、好物の日本酒のプレゼン
トも。翌日は、デイサービスの
皆さんとの誕生会で盛り上が
りました。「長生きの秘訣
は？」の質問に「何にもない、
あるがまま。でも、どんなに辛
いことがあっても最後は笑いに

変えることと、中
休みをすること
(深呼吸をすると、
自分や周りが見え
る)、この二つは大
切にしてきまし
た。」と自分の言葉で語る本
田さん。100歳を迎えても
尚、ご自分でしっかり歩いてお
られます。ご家族は「家では
一人ではいたけれど、ひだまりで
は人との交流があるので大変
幸せだと思っています。きつと、今
が人生の絶頂期なのではない
でしょうか?」とおっしゃって
いました。

これから末永くよろしく
お願い致します。
サービス付き高齢者向け
住宅ひだまり 職員一同



組合員のみなさんからの声

生協の理念に立ち返って

機関紙の記事「介護報酬改定」も「高齢者医療費2割負担」も「原発事故から10年を経て」も、みな政治と直結する重要なものばかりですね。それこそ（一人は万人のために万人は一人のために）の生協の理念に立ち返って、くらし

の困難を切りひらくことが求められてると思います。一人では何もできないけれど、力を合わせてがんばろう。

蓬萊支部 渡部 保子

ロングピロピロ

「虹のネットワーク」4月号を機関紙と一緒に配布しましたが、この中で「ロングピロピロ」の紹介がありました。コロナ禍で人と会う機会が減っておしゃべりも少なく

なっているこの時期に、班会でも取り扱って、皆で少しの時間やってみたらどうでしょうか。私も手元にないのでぜひ購入してやってみたいと思います。

あづま支部 篠原 和子

この機関紙の毎号のご意見感想をお寄せいただくモニターを募集しております。ご協力いただける方は、組合員活動部（522-11236）松崎までご連絡ください。



職場紹介

健診課

「安全」で「安心」な健診を目指して

健診課 荒井 良昭



わたり病院健診センターは、安斎先生を中心に15名のスタッフで、年間1万件以上の健診を行っています。昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大により1ヶ月以上健

診を中止したり、再開後も子宮癌検診や胃腸検診などの開始時期がずれたりしたために、組合員の皆さんには何度も足を運んでいただき、ご苦労をおかけしました。

病院内での密を避けるため、病院前でテントを張っての予約や、レントゲン・心電図などの各検査も制限を設けて案内するなど、他部署の協力を受け健診を行ってきました。

昨年は健診に関する情報提供が遅れてしまい、希望の検診を受けることができなかったなどの苦情もいただきました。

今年度からは、ホームページや機関紙、また院内での掲示などを活用して早期から健診に関する情報を提供し、皆様に安心して受診していただけるよう努力してまいります。

今年度も新型コロナウイルスの感染状況から目を離すことができませんが、「安全」で「安心」な健診を目指して進んでいきたいと思っています。よろしく願いいたします。

／ちよつと／ おすめの



松谷彰夫著 かもがわ出版

本書の半分ものページを割き、安全であるという原発神話が作られていく様が克明に書かれている。特筆すべきは、国が神話を作る過程でマスコミが多く寄与していることだ。

1975年「原発県連」の住民404名が、福島第二原発設置許可処分取消を求め福島地裁に提訴した。裁判は17年9か月という長期に及んだ。たとえ勝つても一円にもならない裁判で、月会費百円での闘いだ。これに対し、県の広報活動費は毎年7千万円。「安全神話の垂れ流し」のために使われ続けた。まさに巨象に挑む蟻達の闘いだ。そして1992年原告敗訴が確定した。

その19年後2011年、あの原発事故が起きたのだ。津波により電源喪失、水素爆発など、警鐘して争った裁判の通りになって

しまった。原告の一人はその後こう述べている。「自分の正しさが証明された今、それ見たことかと喜べない、あいつらが言っていたことはウソだった。原発事故なんか少しも起こらなかったじゃないかと、むしろそうやってほしかった。こうなる事は間違いないと言いつつ続けたきたものの、こうなつてほしくなかつたからこそ言い続けてきたのだ」

もう一人訴訟を支えた科学者の言である。「忘れないで欲しい。40年も前から激しい嵐に抗しながら傲岸不遜な国家と電力企業を相手にこの国の原発政策を根底から問い、闘っていた人々がいたことを」

杉妻支部 川崎 三枝子

口腔機能の低下

オーラルフレイル 予防のために

コロナ禍で、人のおしゃべりが少なくなっています。マスクをいつもつけていると、口呼吸になりがちです。口腔機能の低下を防ぎ、体幹を整え呼吸力を鍛える方法として、昔懐かしい吹き戻し（ピロピロ）の使用があります。口の周りの筋肉、呼吸に関する筋肉を鍛え、オーラルフレイル予防のために、今人気の「ロングピロピロ」（650円）がお勧めです。「懐かしい気持ちになりました」「やってみると結構大変！でも楽しい」との声が寄せられています。みなさ



ん、ぜひチャレンジしてみてください。お申し込みは、組合員活動部（522-1236）まで

大好評につき売り切れご麺！

島原そうめん販売



50g×36束 4,320円

組合員特別価格

2,900円

きれいに包装され、ご贈答用としても最適です。ご希望の方にはのしをお付けします。お早目にお申し込みください。

お申し込みは、お近くの支部運営委員さん班長さん、組合員活動部（522-1236）まで

無料 法律相談会

- 日時
毎月第2木曜日 13:30～15:30
※日にちは変更になる場合があります。
- 場所／医療生協わたり病院内
事前申込制 Tel. 024-522-1236
- 相談員／あぶくま法律事務所弁護士
ご利用は組合員のみとさせていただきます。

組合員のみなさんからの記事を募集しております。
ご意見ご感想、身の回りのことなどをお寄せください。
素敵な作品なども大歓迎です。



- お問合せ
福島医療生協組合員活動部
Tel. 024-522-1236

★ふるさとの歴史探してみませんか★ 葛の松原碑（桑折町）

渡利支部 三浦 正雄

飯坂温泉から桑折町へ向う県道飯坂・桑折線で桑折町に入ると道路左側に「松原寺」の案内があり、上って行くとお寺左側高台の松原寺観音堂わきに「葛の松原碑」（桑折町指定文化財・史跡）があります。かつては2kmにも及ぶ「松原」で有名だったとか。平安時代から多くの歌人・俳人たちによつて和歌・俳句が詠み継がれてきました。以下、桑折町教育委員会の説明文にそつてみてみます。



建立した。

碑には二つの和歌が刻まれています。（なんともすばらしいことと思ひ、紙面をお借りして紹介しました）

その後陸奥国信夫郡葛の松原に錫を留め、この地を仏法有縁の地と定め、三昧を勤めていたが1157年（保元二）四十一才の生涯をこの地で終えた。時移り、覚英入寂（没）約六百年後、福島藩主板倉公の裏臣河原英機は僧覚英の事蹟碑が風化しているのを知り、松原寺七世白明上人と相談し、1768年（明和五）、栄機七十二才の手にこの碑を建立した。